

—— 天沼地区町会連合会 ——

地区の町会が連携して地域ぐるみの防災対策

取組概要

- 連合会が一体となり災害に立ち向かうという意識が強く、36年間継続して8町会合同防災訓練を実施
- 毎月定例的に開催する8町会合同の町会長会議の実施
- 8町会合同のホームページで活動を広報



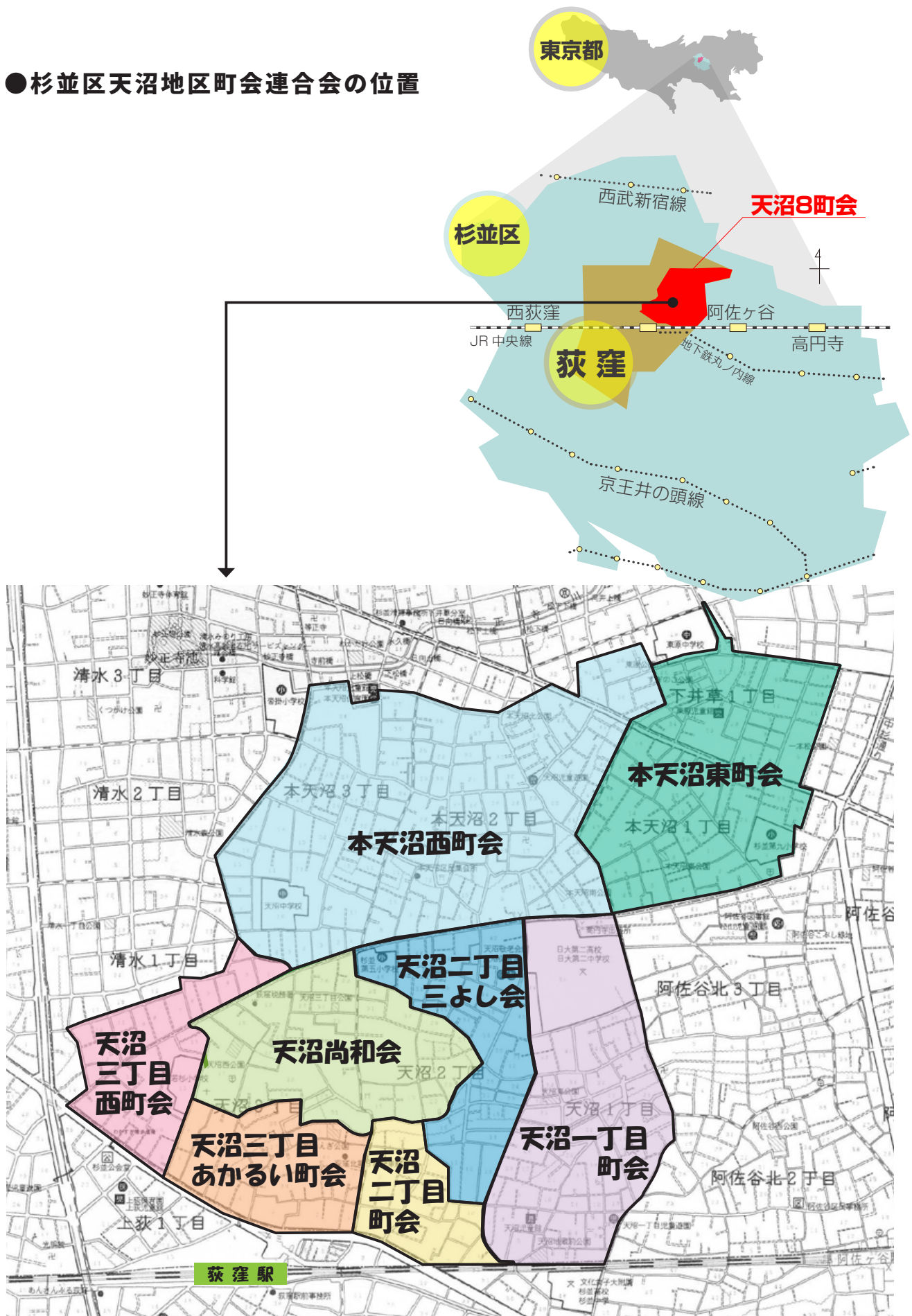
天沼8町会の連帯の歴史とこれから

● 杉並区天沼地区町会連合会とは

天沼地区町会連合会は、現在の天沼1～3丁目及び本天沼1～3丁目の全域並びに清水1丁目及び下井草1丁目の一部を区域とする8町会(天沼一丁目町会、天沼二丁目町会、天沼二丁目三よし会、天沼尚和会、天沼三丁目西町会、天沼三丁目あかるとい町会、本天沼東町会、本天沼西町会)をもって構成されています。これらの8つの単位町会は、杉並区からの区政協力委託金や防災市民組織助成金、また町会ごとに町会費や東京都地域の底力再生事業助成金等を活用しそれぞれの町会活動を行っています。活動範囲は各町会により違ってきますが主に防犯・防火の啓蒙や周知、単位町会の防災訓練や防災備品購入、そして高齢者への支援活動、新入学時へのお祝いなどが上げられます。活動内容は地域の特性により異なりますが多岐に渡って行われています。天沼8町会では単会の活動とは別に、平成20年頃から8町会がまとまって共同の目標(主に防災訓練や子育て支援など)を持ち結束してその目標達成のための活動を展開しています。

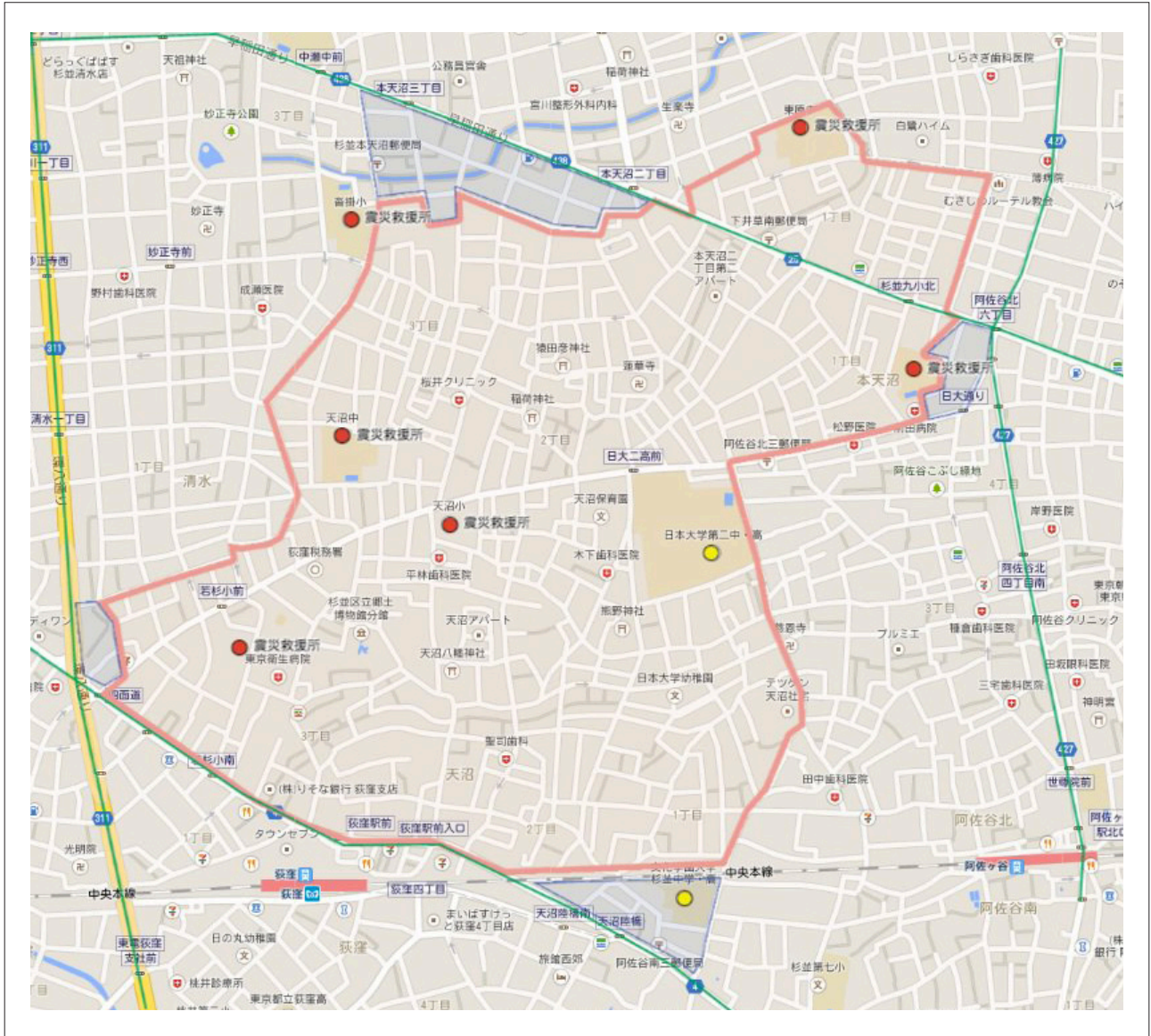
当天沼8町会は、昭和初年からの古い住宅地にあり、終戦直後から10余年のうちに、戦前の隣組のエリアを基盤として現在の町会が再編されたが、いずれも町会名に「天沼」を冠していることからわかるように、これが単位町会間のボーダーレス意識の源流となっている。

●杉並区天沼地区町会連合会の位置



●見えるボーダーと天沼地区の区立小学校・中学校等に6カ所の「震災救援所」地図

地図上で見ると東側は中杉通り、北側は早稲田通り、西は環状8号線を、南は青梅街道を境に幹線道路や大きな道路に囲まれた中に位置しています。大きな道路に囲まれた事で一体感が生まれ連帯感を強める一因になっています。

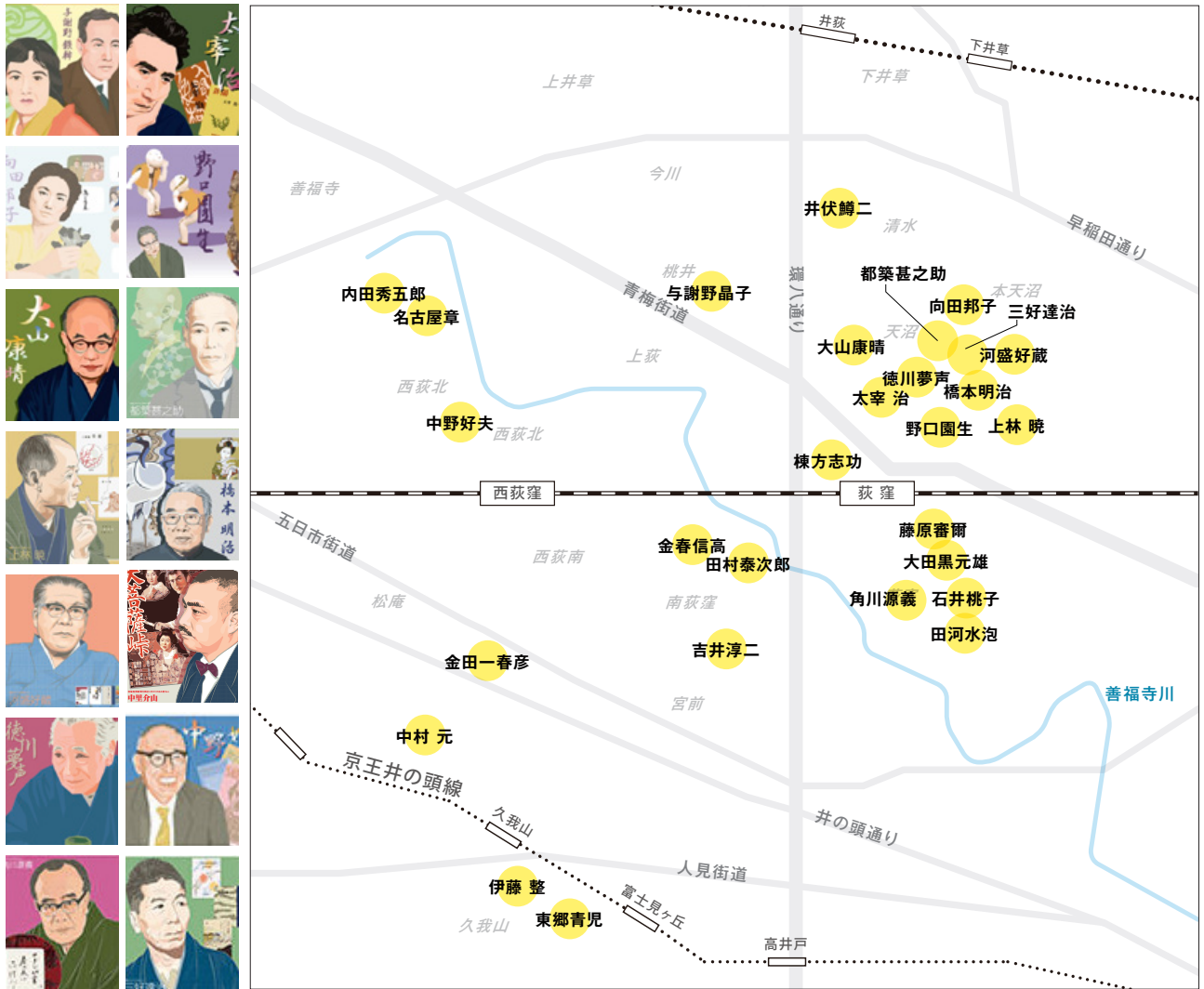


●目に見えないボーダー

天沼には戦前、戦後を通して多くの文化人が住んでいました。阿佐ヶ谷の文士村に影響された作家をはじめ絵画、能楽師や作曲家、作詞家などその存在は多岐にわたります。こうした、知識人の作った環境が天沼に住む人々の誇りでもあり郷土愛に通じるものです。

〔天沼の文化〕

天沼周辺に住んでいた著名人



●天沼 8 町会の取組み

- 1) 天沼地区震災救援所 6カ所を柱とする災害に強い組織作り(杉並区・区立小学校 42、中学校 23、他 1, 計 66 校を震災救援所)
- 2) 高齢者、身障者、母子家庭など、社会的・経済的弱者を全員で支える地域社会の実現
- 3) 8 町会全体と区及び地域の警察・消防が一体となって推進する合同防災訓練
- 4) 都が「地域の底力再生事業」として創設し(2007 年)、区が推進することとなった(2008 年) 世代間交流を軸とする「まちの絆向上事業」
- 5) 地元荻窪に郷土意識を持ちつつ、これからの東京中西部地域の中心として期待される役割を果たすことのできる街づくりの推進
- 6) 天町連の存在意義を発信するホームページの充実

天沼8町会の防災に関する取り組み

天沼地区は、荻窪北口側に位置した道路狭あいな住宅密集地域を抱え、火災発生時の延焼拡大危険度が高い地域です。このため、天沼地区の8町会が一体となり地域ぐるみで災害に立ち向かうという意識が非常に強く、毎月定例的に8町会合同の町会長会議を開催し、地域防災の諸問題、防災訓練計画、各種行事等について審議しています。同会議には小中学校の校長先生・荻窪消防署天沼出張所と区が出席し、警察・震災救護所の責任者は必要に応じて参加している。地域防災・治安に関する諸問題を意見交換するなど地域と行政が連携を密にし、防火防災を推進しています。

●活動内容

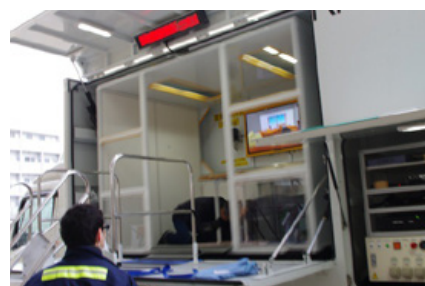
1. 天沼地区町会連合会は昭和52年から37年間継続して防災訓練を行っています。地域に根ざした自助、共助体制確立のため、市民消防隊による可搬ポンプやスタンドパイプの取り扱い訓練をはじめ、住宅用火災警報器、家具転倒防止器具の展示やAED取り扱い訓練など、タイムリーな防災器具の普及に努めています。

2. 震災救護所運営連絡会(天沼8町会は6カ所)に重要な一員として携わっており、地域の防災ネットワークの核となる活動をしています。

3. 救命救急病院の誘致や医療情報システムの構築について、区当局に要望等を重ね、平成17年1月、杉並区急病医療情報センターを設立させるに至りました。

4. 「大地震を想定した我々の心構え」や「大震災時における避難者数と収容能力について」の震災関係資料を作成しました。

5. 荻窪消防署天沼出張所では各家庭を訪問し住宅火災警報器の点検を含め防火診断などを行っています。



天沼 8 町会防災訓練（現在 年2回）

自助・共助 目的 防火・防災訓練

具体的な防災訓練

例) 日時：平成 26 年 9 月 21 日 場所：杉並区立天沼小学校

●総合訓練

地震発生から地域住民により、スタンドパイプによる初期消火及び倒壊建物からのジャッキを使用した救出救護、搬送までの一連の活動後、消防隊が到着し、火災建物 2 階から逃げ遅れた人に人を三連はしご及びロープを使った救助。

●その他訓練

・スタンドパイプ取扱い訓練 ・応急救護訓練 ・倒壊建物からの救出 ・救助訓練 ・起震車体験訓練

●参加者

・8 町会：246 名 ・消防署・警察署・行政：41 名



多様な団体の訓練に天沼 8 町会として参加

●杉並区・武蔵野市内警察署合同震災訓練(平成 25 年 4 月 17 日)

杉並区・武蔵野市内警察署合同震災訓練(荻窪警察署、杉並警察署、高井戸警察署、武蔵野警察署)が平成 25 年 4 月 17 日(水)に関東バス(株)阿佐谷営業所において行われました。訓練参加警察部隊と訓練参加団体は以下の通りです。

●訓練参加警察部隊

[警察署部隊]・荻窪警察署救出救助部隊・杉並警察署救出救助部隊・高井戸警察署救出救助部隊・武蔵野警察署救出救助部隊
[警視庁本部部隊]・警備第二課(警備犬)・災害対策課(特殊救助隊)

●訓練参加団体

[消防署部隊]・荻窪消防署 天沼特別消火中隊・武蔵野消防署 特別救助隊

[杉並区]・杉並区バイク隊

[民間防災部隊]・日大第二高校 学生ボランティア・天沼地区防災会連合会・(有)末広工機(重機協力会社)

●訓練進行表

13:30～ 訓練開始

13:35～ エンジンカッター、チェーンソーの操作及び切断訓練

13:50～ バルーンライト、背負い式照明用具の組み立て訓練

14:05～ 簡易レッカー(ゴージャック)による車両移動訓練

14:20～ 車両内閉じ込め事案の救出救助訓練

14:40～ 倒壊家屋からの救出救助訓練(訓練参加団体:杉並区バイク隊、荻窪消防署 天沼特別消火中隊、武蔵野消防署 特別救助隊、日大第二高校学生ボランティア部隊、天沼地区防災会連合会、(有)末広工機)

15:05～ 警備犬の服従訓練(警備第二課)

15:10～ 特殊救助隊による降下訓練(災害対策課)

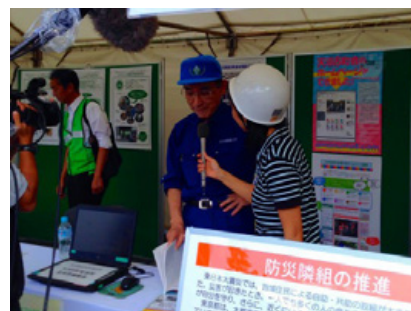
15:30～ 訓練終了



平成 26 年度東京都・杉並区合同総合防災訓練

東京都と杉並区は総合防災訓練を 8 月 30 日に実施し、天沼 8 町会(59 名)は防災隣組として参加しました。天沼 8 町会は高円寺北地区で行われた木密地域での震災対応などを体験。初期消火や、人形を使ってがれき下からの救助などを行いました。

渡辺泰次会長は、報道インタビューで住民のつながりの重要性を説き「まずは自分の身を守る知識を地域みんなで共有するのが大切」とコメントしています。



震災救援所

地震により災害を受けた人や避難を余儀なくされた人のために、避難・救援の拠点として、杉並区では区立小学校・中学校等に避難所にあたる「震災救援所」を開設します。震災救援所では、被災して生活が出来なくなった方のために、飲料水や食料、生活用品などの救援物資の配布などを行います。自宅での生活が可能な方は、震災救援所で生活する必要はありません。



震災救援所は、区、学校及び地域住民をはじめ、避難してきた方々の協力を得て、運営していくことになります。震災救援所の運営管理については、各震災救援所ごとに、その地域に合わせたマニュアルづくりに取り組んでいます。

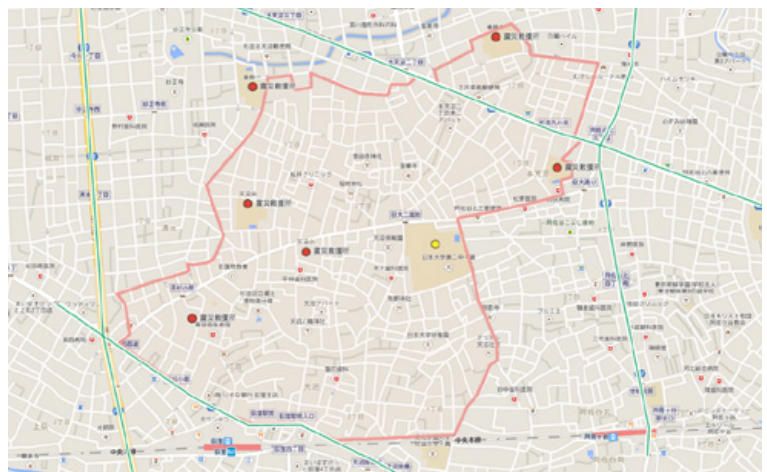
震災救援所と学校

首都直下地震が発生し、ご自宅の家屋の倒壊や火災により焼失の危険がある時に皆さんはどこに避難しますか？ 天沼・本天沼地区周辺には広いスペースが確保されている地域(公社鷺ノ宮西住宅一帯・白鷺一丁目地区、シャレール荻窪一帯、善福寺川緑地和田堀公園(西地区)一帯、和田堀公園(東地区)一帯、桃井原っぱ公園一帯)が広域避難場所に指定されています。いずれの場所も例えば天沼小から直線距離で約 1.5km のところにあり少し遠いのが気になりますが、いざという時には、自分自身、家族、ご近所の安全をまず確保し、家屋倒壊により生じた道路状況、火が迫ってくる方向、風の向きを考えて、ひとまず広域避難場所に避難してください。

杉並区内で震度 5 強以上を示す地震が発生した場合、すべての区立小学校・中学校に自宅での生活ができない状況になった避難者を受け入れる震災救援所が立ち上がります。最新の耐震性・耐火性を備えた天沼小震災救援所では区役所職員、学校教職員、PTA 会員、民生・児童委員、各町会員等から約 100 名で運営連絡会を構成し、総務・情報部、施設管理部、物資等配給部、救護・支援部の四つの部門を分担し、大震災の際の地域住民の安全・安心を確保するため警察・消防と連携し、日々努力を重ねています。

発災時、運営委員の中には被害状況により震災救援所に駆けつけられない人も出てくるので、健全な一般避難者の方々にも震災救援所運営の手伝いをお願いすることになります。地域が支える震災救援所でありたいと思っています。

●見えるボーダーと天沼地区の区立小学校・中学校等に 6 カ所の「震災救援所」地図



例：天沼小学校震災救援所訓練

共助・公助 目的 救援所立ち上げと避難者受け入れ訓練

●組織の説明

天沼8町会の内関係町会から民生委員を含め連絡会委員を約10名～15名選出し役割を均等化しながら総務・情報部、施設管理部、物資等配給部、救護・支援部の各4部に配属し、ボーダレス化を図っている。民生委員は予め救護・支援部に配属。本部長は天沼町会連合会の会長が現在は兼任し各部の副本部長は各町会長が選任されている。

●訓練内容

救援所解錠確認 体育館・教室の部屋割り 防災倉庫の資材点検 受付対応訓練 トイレ組み立て訓練 応急救護訓練 炊き出し訓練 無線通信訓練
リヤカー組み立て訓練 スタンドパイプ取り扱い訓練等

●天沼震災救援所の訓練には日大第二中学校 杉並区中学生レスキュー隊の天沼中学校の隊員も参加。地域住民の高齢化に伴い中学生の参加は欠かせないものになっています。



●天沼小学校震災救援所マニュアル

総務・情報部、施設管理部、物資等配給部、救護・支援部の各4部がそれぞれのマニュアルを作成し一冊にまとめたものを救援所備蓄倉庫内で閲覧ができ、マニュアルは初めて手に取る人にも分かりやすく容易に震災救援所の立ち上げが可能になっています。

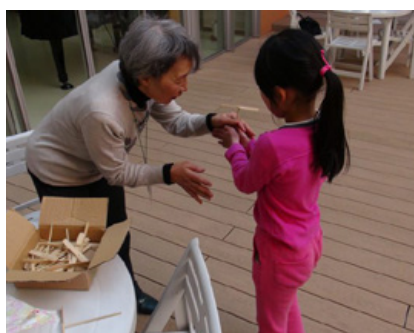


子どもたちの見守り事業

「地域の底力再生事業助成」(東京都) から 「まちの絆向上事業助成」(杉並区) へ 現在は天沼地区町連で分担

平成 19 年に「地域の底力再生事業助成」(東京都) を申請、これを皮切りに平成 20 年度からは杉並区の「まちの絆向上事業助成」を 3 年間継続し、平成 26 年からは天沼地区町連で資金を分担して学校支援を行っています。この活動は、「子どもたちは地域で守り育てる」をスローガンに学校と協力し合い、安心・安全なまちづくりの一環として事業に取り組んでいます。

- 朝あそび：天沼小学校の校庭で「朝あそび」の見守り支援。
- 学校緑化：天沼小学校の飼育栽培委員会を中心とした花咲けプロジェクトの支援。
- 伝承遊び：天沼小学校の体育館で竹とんぼ、はねつき、お手玉などの昔遊びを通じたふれ合い支援。
- 交流会：天沼小学校の調べ学習「私たちの天沼」「PTA 交流会」支援交流活動。



こうした世代間交流の促進が、地域の結びつきを強くし、ひいては防災への参加促進や地域の防災力向上につながっていきます。

8 町会の中の組織

●天沼中学校区地域教育推進協議会(あまぬまスマイル委員会)

天沼中学校区地域教育推進協議会(地教推)とは、天沼中学校区における0歳～15歳までの子どもの育成や教育をコミュニティの問題として「学校」「家庭」「地域」が協力し合って、子どもたちが生きる力と豊かな心を育みながら、健やかに育つ活力のある町を実現する組織です。地域内の学校や子どもに関わる組織、町会などの地域団体のメンバーで構成されています。

子ども見守り部会 / 子どもたちが安心・安全に過ごせるまちづくりの推進

思いやり部会 / 身近な生活のなかで自発的意志に基づき他人や社会に貢献する機会を提供する

学びあい伝えあい部会 / 主に子育て世代や子どもたちに学ぶ機会や情報交換の場を提供することで、「豊かな子育て」・「夢を追う子育て」を応援する

- ・活動内容
 - スマイルバッチで小学生、中学生も地域であいさつ
 - 子ども見守り講演会
 - 安心安全なまちづくり・今、家庭でできること
 - ボランティアコーディネート
 - 天沼チャリティーマーケット
- ・地域の活動カレンダー

天沼チャリティーマーケットは天沼中学校で生徒たちが実行委員会を作り地域の各団体と協力して行われる事業です。天沼8町会はサバイバルカフェを担当し、25年度は東日本大震災の時に避難所で作られたひつつみ鍋(岩手県)を再現し26年度はせんべい汁(青森県)やおにぎり、あんみつなど作り販売しました。その収益は杉並区の姉妹都市である南相馬市みらい夢基金や赤十字に義援金として送っています。



過去の受賞歴

平成17年度「地域ぐるみの防災行動力の向上を目的とした防災訓練の実施」への取り組みにより

●第2回地域の防火防災功労賞 平成18年2月23日(東京消防庁) 防災部門優秀賞

●第10回防災まちづくり大賞 平成18年3月23日(総務省) 一般部門消防科学総合センター理事長賞

受賞理由
防災訓練

1. 地域の防災行動の向上を目指し、昭和52年から秋の火災予防運動に併せ年1回、平成5年からは年2回、11+26年間継続して行っている ●行政機関へ提言
2. 地域の防災ネットワークの組織作りを提言し平成9年に現在の震災救援所運営連絡会の元になる学校防災連絡会を設立させる
3. 平成12年救命救急対応病院の設置 平成15年既存の医療施設を活用して効果的な救急医療を実現するためのシステム化に関する提言 ●平成16年杉並区独自の救命救急体制構築に関する要望
4. 震災救援所運営連絡会は本会が中心となって準備を進め区内に置いていち早く立ち上げ、他のモデルとなった ●天沼地区町会連合会では平成14年に「大地震を想定した我々の心構え」を策定

●ホームページ作成の効果

- 1) 活動の整理：町会活動を俯瞰してみる事ができる
 - ・町会活動の過不足や良い所、悪いところなど洗い出しができる
(例：AEDの設置場所、スタンドパイプや消火器の設置場所、町会の防災用の備蓄品等)
- 2) 活動の記録：今後の町会活動に参加運営される人たちの参考になる
 - ・現役世代や新規参入者に町会の説明が容易になり参加意欲や帰属意識を高められる
 - ・町会活動の歴史を見ることが出来る
- 3) 小中学生の参加意識を促す事ができる。
 - ・小中学校の地域の関連活動など取材で相互の掲載も可能になった。
- 4) 防災訓練や防犯パトロールの日程など連絡事項の迅速化と回覧板、掲示板の補足ができる
- 5) 荻窪地域の情報の発信(例：地域区民センターの行事を掲載)
- 6) 区や区民センターや小中学校など高質なサイトとリンクを貼ることで情報の中継基地になり得る
- 7) 各町会活動が把握できる
- 8) SNSの利用(Facebook)



●東京都の底力再生事業助成金を得て平成23年4月度に立ち上げ

●各町会から1～2名が参加して2ヶ月に1回委員会を開催



天沼8町会ウェブサイト



天沼8町会フェイスブックページ



ウェブサイト内の動画レポート

スタンドパイプ他防災器具設置箇所配置地図

🔥 街頭消火器 / 🔥 大型消火器 / D D級ポンプ / S スタンドパイプ / 🔥 消火栓 / + レスキューキット / ❤️ AED



各町会活動例の紹介

防災訓練

- 各町会では地区町連の防災訓練とは別に防災訓練をしています。それぞれ近隣の公園を使用しながら地域にあった訓練を行っています。



【天沼一丁目防災訓練】
 起震車体験、ポンプ操作訓練、初期消火訓練、応急救護訓練、煙体験訓練、119番通報訓練など体験。



【天沼尚和会防災訓練】
 救命救護、トイレ設置、起震車、スタンドパイプ、消火器、防災食など6ブースに分けての訓練。



【三丁目あかるい町会 防災訓練】
 天沼消防署員の指導を受け、道路上の消火栓を開き、スタンドパイプとホースの取り付け、開栓、放水を体験。

パトロール

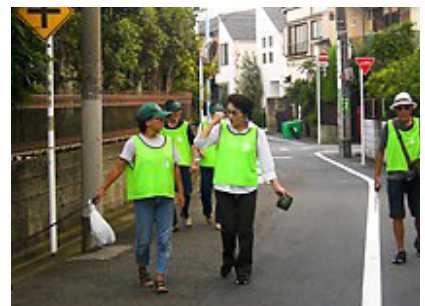
- 天沼一丁目町会・防犯パトロール隊は今から10年前、平成15年に発足しました。スタートのころは25名の隊員でしたが、皆様の防犯・防火に対する意識の向上で今では45名に増加しました。
- 天沼尚和会のわんわんパトロールは平成14年に立ち上げ現在約60名の隊員が登録し定期・不定期にパトロールを実施しています。



天沼一丁目パトロール隊



荻窪警察署と合同パトロール



天沼尚和会の「わんわんパトロール」

今後の課題

[近々の課題として]

●小規模単位の活動 / スタンドパイプ設置「ご近助防災隣組」

杉並区では各町会にスタンドパイプの配備を行っています。区の配備計画を契機に幾つかの町会では独自に台数を増やす計画を立てています。ある町会では年に1台~2台を設備し将来的には町会全域をカバーできるか検討をしています。

スタンドパイプの消火栓近くの家を中心に10~20軒程度を目安にグループ化し現役世代と高齢者のコミュニケーションのツールとしても活用。

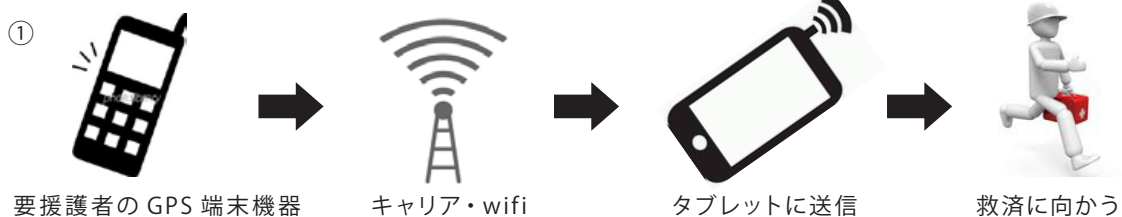


[中期的課題として]

●震災救援所：震災時の要援護者への駆けつけ / SNS を利用してタブレットやスマートフォンの活用

災害対策で重要な事の1つに災害にあった人を見つけ救助する事が上げられます。そのためには正確な情報と素早い対応が求められます。

タブレットやスマートフォンを利用して災害直後には迅速な初動対応ができるシステム作りが課題です。中学生のレスキュー隊や現役世代を中心に組織編成が求められています。



②被災状況を本部に写真で報告⇒対処を指示

●その他の課題

◎震災救援所：時間軸による医療機関や個人医師との連携、提携

◎防災・防火：高齢者、一人住いの方の対応

◎震災救援所：9時~17時の現役世代の連携(法人企業の参入)

◎震災・防火等各機関との情報の連携

東京衛生病院 杉並建設防災協議会

DCP(District Continuity Plan) 企画検討部会内研究会【非常食研究会】